

子どもたちに、サッカー選手への夢をかなえたい。

1 型糖尿病の元 J リーガー・杉山 新さんと糖尿病ネットワークがコラボ！ ブログ「1 型糖尿病と生きる -挑戦を希望に-」を公開

糖尿病ネットワーク事務局

糖尿病総合情報サイト「糖尿病ネットワーク」（運営：株式会社創新社）は、元 J リーガー・杉山 新（あらた）さんと連携し 1 型糖尿病の認知啓発を広めるブログをオープンしました。

杉山さんは、柏レイソルでプロサッカー選手としてのキャリアをスタート。2003 年に移籍したヴァンフォーレ甲府で徐々に出場機会が増えるも同年、1 型糖尿病を発病し戦力外通告を受けます。絶望の淵でなんとか練習生としてチームに帯同。療養生活とサッカーの両立に苦しみながらも、3 カ月の練習生期間を経て実力でプロ契約を勝ち取りました。以来、2015 年 2 月に現役引退するまで大宮アルディージャ、横浜 FC、FC 岐阜と 10 年以上にわたり活躍し続けました。現役引退後は、指導者としての第二のサッカー人生を送るなか、1 型糖尿病の認知を広める活動にも精力的に参加されています。

今回、同じ病気に悩む患者さんたちへ挑戦への勇気と希望を与えたいという想いに糖尿病ネットワークが賛同し、アメーバブログに「1 型糖尿病と生きる -挑戦を希望に-」（<http://ameblo.jp/arata-sugiyama>）を開設。また、糖尿病ネットワークの 1 型糖尿病患者が多く集う「インスリンポンプ情報ファイル」に特設コーナーを設置し、月に 1 回の連載もスタートします。

1 型糖尿病は、2 型糖尿病のような生活習慣病とは異なりインスリンが出ない先天的な難病です。小児、若年発症が多く、この病気にかかった子どもたちは自分でインスリン注射を打って生活しています。近年は、杉山さんのようにインスリンポンプ（携帯型のインスリン注入ポンプを用いてインスリン製剤を皮下に持続的に注入する治療法）を利用している人も増えています。杉山さんは「1 型糖尿病への理解を広める活動を通して、子どもたちに最も人気のスポーツであるサッカーを、1 型糖尿病の子たちにも楽しんでもらいたい。子どもたちや親御さん、糖尿病医療に携わる医療従事者、学校の先生や養護教諭の先生にもぜひブログを読みに来ていただき、この病気に対する情報交流の場になれば嬉しい」と語っています。

Ameba ▶ マイページ ▶ ブログ ▶ アメブロ

※ 御ゆるこむ 漫画家と31歳差姉 芸能人ブログ 人気ブログ Ameba新規登録(無料)



1 型糖尿病と生きる — 挑戦を希望に — 元 J リーガー・杉山 新 by Ameba.

発病してみて、この病気で苦しんでいる人たち、特に子どもたちは、多くの場合夢を追うことを諦めてしまう、ということを知りました。

この病気は、本当に認知度が低いと思います。

今はとにかくこの病気のことを沢山の方に正しく理解していただき、病気と闘っている人たちが少しでも人生を楽しむことができる社会になることを望んでいます。

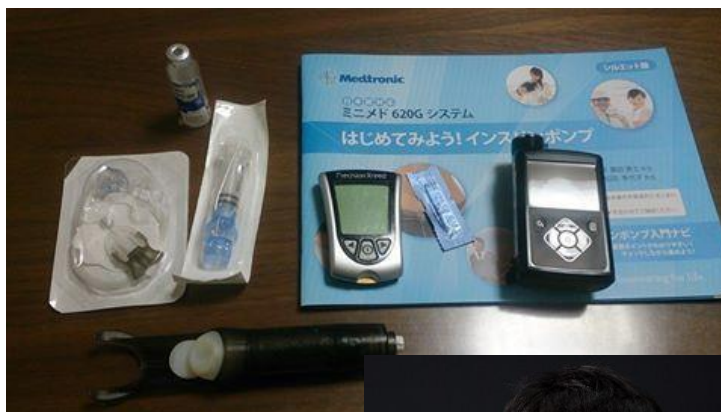
この思いは引退した今でも僕の全ての活動の原動力となっています。

(2006 年「ヴァンフォーレ甲府」所属当時)

■ 杉山新アメーバブログ「1 型糖尿病と生きる -挑戦を希望に-」（<http://ameblo.jp/arata-sugiyama>）

杉山 新さんからのメッセージ

僕は23歳で1型糖尿病になりました。この病気になってからも、Jリーガーとしてプレーしてきました。この病気は、本当に認知度が低いと思います。「糖尿病」という名前からのイメージで偏見に苦しむ人も多いし、生涯にわたる治療のために経済的な負担も大きくて、病気と闘うことと、ただ生きていくことで精一杯になってしまいます。自分自身もなんとか選手として生きること必死でした。今はとにかく沢山のの人に、この病気のことを正しく理解していただき、病気と闘っている人たちが少しでも人生を楽しむことができる社会になることを望んでいます。



【杉山 新 プロフィール】

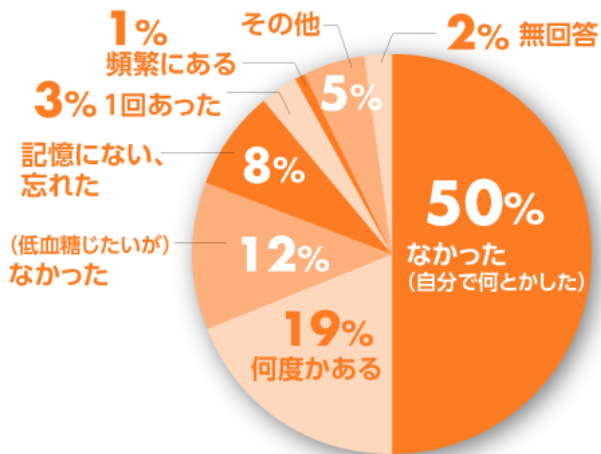
1980 年、埼玉県春日部市出身。柏レイソルジュニアユース、同ユースを経て 1999 年にトップチームへ昇格。4 年後の 2003 年にヴァンフォーレ甲府へ移籍し、16 試合に出場するもシーズン終了間際の 11 月に 1 型糖尿病を発病し戦力外通告を受ける。3 カ月の練習生生活を経て次シーズン以降も契約更新し、2005 年の J1 昇格に大きく貢献。なお、この時与えられた背番号"32"に愛着を持っており 9 年間に渡って着用した。その後、大宮アルディージャ、横浜 F C、F C 岐阜を経て、2015 年 2 月に現役引退。現在はサッカースクールなどで後身の指導にあたる他、一般社団法人アスリートセーブジャパンでの「いのちの教室」講師、1 型糖尿病認知拡大を目的にマラソンイベントに挑戦する「ブルーラン」など幅広い活動を行う。著書『絶望なんかで夢は死なない"難病"リーガー" 杉山新、今日も全力疾走』（イースト・プレス刊）。

杉山 新 オフィシャル WEB サイト <http://sugiyama.spo-sta.com/>

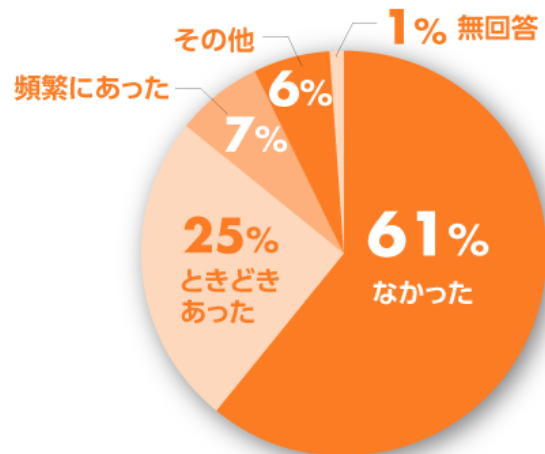
■ 1 型糖尿病の子どもたちが抱える悩み

2015 年に糖尿病ネットワークが 1 型糖尿病をもつ小学生を対象に行った「小児 1 型糖尿病患児の治療環境に関するアンケート調査」によると、親御さんから担任の先生へ病気のことを話すことはあっても、クラスメイトへ話すことは少なく、病気に対して校内での認知が低いため低血糖になっても「なんとか自分で対処している」と答えた子は半数に及びました。インスリン注射は保健室やトイレで打っている子が多く、いじめを受けた経験者は 4 割。このような現状からも、やはり激しいスポーツを避ける子、スポーツ選手になる夢を最初から諦めてしまう子は少なくないと思われます。

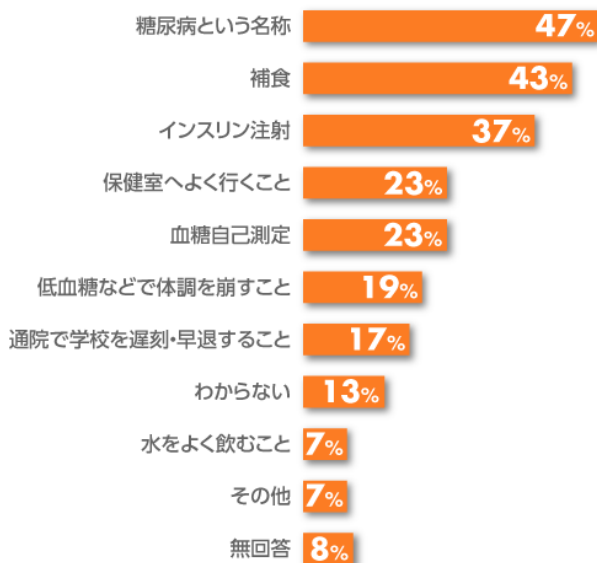
学校生活の中で、人の助けが必要になるような低血糖になったことはありますか？ (n=115)



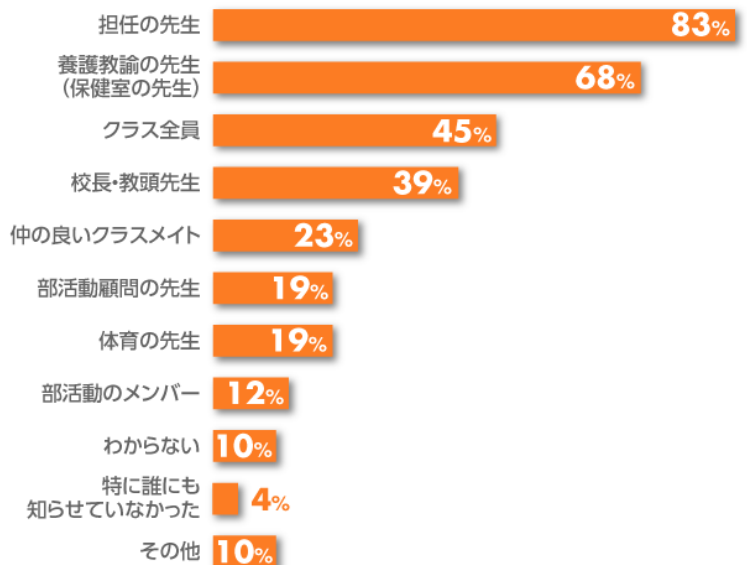
糖尿病のせいでクラスメイトにからかわれたり、いじめられたりしたことはありますか？ (n=115)



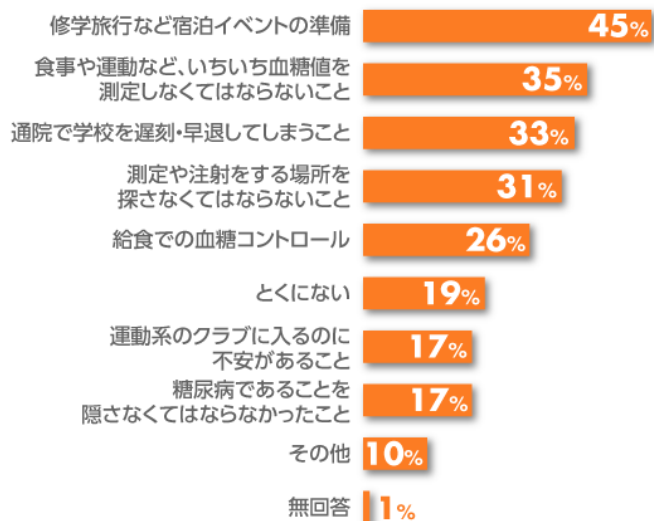
からかわれるきっかけになりやすいのは、どのようなことが多いと感じますか？ (n=115 複数回答可)



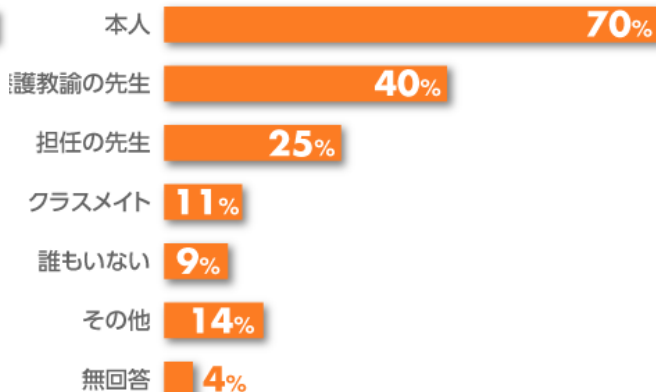
学校では糖尿病のことを誰に知らせていましたか？ (n=115 複数回答可)



学校生活と糖尿病治療の両立で、
どのようなことが不便でしたか？ (n=115 複数回答可)



学校で低血糖になった際、
対処できるのは誰ですか？ (n=115 複数回答可)



【関連情報】

- 杉山 新ブログ「1型糖尿病と生きるー挑戦を希望にー」: <http://ameblo.jp/arata-sugiyama>
- インスリンポンプ情報ファイル: <http://www.dm-net.co.jp/pumpfile/>
- 1型糖尿病について: <http://www.dm-net.co.jp/type1/>
- 小児1型糖尿病患児の治療環境に関するアンケート調査: <http://www.dm-net.co.jp/pumpfile/enquete/201509/内>

<本件に関するお問い合わせ>

糖尿病ネットワーク事務局「杉山新ブログ」担当: 佐藤晴美、広瀬美深
〒105-0003 東京都港区西新橋 2-8-11 第7東洋海事ビル 8階 創新社内
TEL.03-5521-2881 Fax.03-5521-2883 E-mail. pump@dm-net.co.jp